

ふじぎごんぶん

第181号

2016年
9月号

☆ しんかんせん の ふじぎ ☆

へんなかおっ!~

ようちえんでは、なつやすみのおもいでのおえかきです。

りんくんは、おばあちゃんのおうちにいったときにのったしんかんせんをかきました。

「りんくん、どじようみたの? ひげはかかないの? もしかしてカモノハシ?」

となりのせきのるかちゃんにいわれて、りんくんはだいシヨック。

「ちがうよ、これはしんかんせん!」

「ああ、そういえばー。でも、どうしてふつうのでんしゃのかおはたいらなのに、しんかんせんはこんなへんなかおなのかしら?」

りんくんは「へんって、どこがあ、かっこいいじゃないか。」とおも



っても、うまくいいかせません。ようちえんからかえったら、おうちにいらしていたうさこせんせいにおはなしました。

「あら、りんくん、しんかんせん、じようずにかけていますよ。しんかんせんのかおがこんなふうなのは、くうきがうまくあたってすう〜ってすすめるためです。」

「へえー???」

「かおがたいらだと、はやくはしているときにくうきがあたってじゃまします。トンネルではなかのくうきをおしてでぐちですごくおおきなおとがします。くうきのよけかたをけんきゆうして、このかたちになったのです。りんくん、おくちをとがらせて、どうしたのですか?」

「このかおで、かっこ〜してみます。はやくなるかも。」

かんたん？ いがい？ ためしてみよう！

どんな かたちが はやい？ ☆

はやくするために、くふうした かたちになっ
ているものを さがしてみよう。

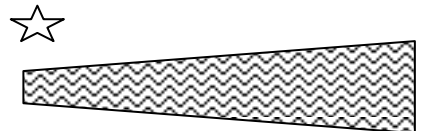
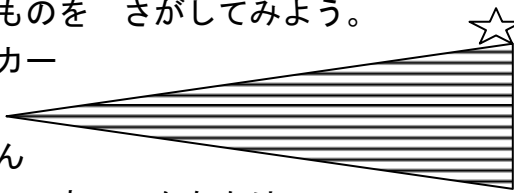
レーシングカー

ひこうき

せんすいかん

おさかなは？ あの かたちは ☆
およぎやすい ように しぜんになっ
たんだね。

かみひこうきは どんな かたちが よくとぶ？ ☆

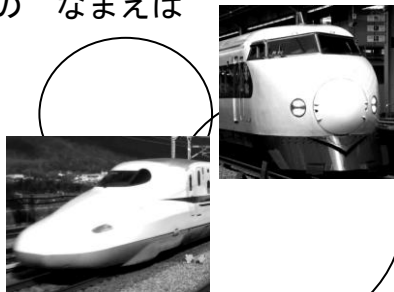


クイズコーナー

1

いちばん はじめに はしった
しんかんせんの なまえは
どれ？

- 1 こだま
- 2 ひかり
- 3 のぞみ



2

いま いちばん はやく
しんかんせんが はしったら
こどもが はしる
はやさの なんばい？

- 1 2ばい
- 2 20ばい
- 3 200ばい



たびの おたのしみは

やっぱり

「あさのや」の

おべんとう

まくのうち、のりまき、
にしょくおこわ、おにぎり、
おすすめは、しんかんせんのかたちの
「こまちべんとう」！！

みんなが みつけた ふしぎ

ながいながい へびに あった。
ひらぺったいから へびじゃない
って、ママがいった。
ぐにやぐにやぐにや・・・
あめで のびちゃったの？

(年中組)

みんなも みつけた
ふしぎ おしえてね

連載 あしおとをきく 多賀二葉幼稚園事例集

毎年毎年たくさんの子どもたちが、様々な思いを抱えて成長していきます。そんな姿を書き留めた保育日誌をもとに、今から三十年近く前に出された保育事例集です。今日の子ども達にも共通する姿に、はっとさせられることがあります。

第二集より

おかたづけ

五、六人の男の子が部屋にある積み木やブロックをたくさん出して線路などを作って遊んでい

る中で、S君だけが一人ぼつんと立っていた。

先生「どうしたの、一緒に遊ぼうよ」

S君「ぼくここでいいの」

先生「おもしろそうだよ」と、先生がもつともつと遊び道具を出そうとする

S君「そんなに出しちゃったら大変なもの」

先生「どうして」

S君「散らかしちゃうと片付けるのが大変なもの」

先生「それじゃあお家では遊ばないの？」

S君「あそぶけど」

先生「一人で片づけると大変だけど、みんなで片づけると早いんだから」

S君「・・・」

その後、みんなが楽しそうに後片付けをしているのを見ていて、沢山出して遊ぶようになりました

玄関の靴

気持ちが悪いです。

褒められることでは

ありませんが、時々目を瞑って黙ってそろ

えてあげます。ところが、余裕のある時「靴

をそろえていって

が、余裕のある時「靴をそろえていって

散らかされる靴はまだ。

授け

お誕生会のご挨拶の時、年少組のHちゃんは泣きながらお名前を言った。大変なことだったろう。それを見て年中のお兄さん、

K君「先生、Hちゃんははじめてなんでしよう」

先生「そうね、初めてのお誕生会ね。三歳ですものね。」

K君「そうだよ、当たり前だよ。恐かったよな！」

想像を絶する緊張の壁を越えて、子供たちは一歩、歩いていく、という事を、また思い知らされました。同じ三歳児でも、泣かないでお名前を言える子もいるのです。でも、他人と比べないで、純粋にHちゃんのことだけを考えられるK君が、とても素直です。

子どもをとらえる (保育者の思い)

子どもをとらえるなどと、かるがるしくいってよいものだろうか。子どもの多角的な生命を思うと、表面的にとらえることの危険を感じる。

子どもはたえず変化している。変化するとは、よりよき成長への授けというけれど、「よりよき」と「望ましくない」のわかれ目はどこ？

ジグザグしながら、そこに確かな目が支えていて、戻ってこられる道の見つめ待つ…その愛はどこからくるのか。

わからないことばかりです。

(続く)

ね。」と後ろから声をかけても、何のこと？と意味が分からない顔、適当にくつつけて(一足ずつ逆向きでも気にせず)置く子、どこでもいいという感じで沓脱ぎから遠い玄関の真ん中に並べに行く子などが目立つて来ました。日本の風習としての靴の脱ぎ方を知らないのでしょうか。礼儀は教わる機会を逸すと思わぬところで自分の価値を下げるもの。幼い日々の暮らしの中でちよつとした事、自然に身に付いていますか？

今月の話題より

ちょっと変わった絵本の楽しみ方



「ぼくしんかんせんへのつたんだ」(あかね書房) くまたくんはこだまに乗っておじいさんの家に出発です。走っていると他の電車といくつも出会いますね。「でんしゃへのつたよ」(福音館) いとこのしんちゃんちに行くぼく。いろんな電車に乗って、駅弁買って、やったー！次は新幹線だ。「はしる！新幹線「すーぱーこまち」」(PHP) 雪の中を走る秋田新幹線でまりちゃんは東京に。真っ赤な車体が印象的。同シリーズには「のぞみ」や「はやぶさ」「かがやき」もあります。全部比べると顔の違いが分かって楽しいですね。ここからは新幹線ではなく、列車の旅。四角い顔の電車が出てくるのは「でんしゃはうたう」(福音館) 駅から電車に乗って、一番前の車両から見

る景色はどんなでしょう。「しゅつぱつしんこう」(同) いまはなき特急「はつかり」の車体がリアル。おじいさんの家まで乗っていて見える景色がだんだん山間に変わっていきます。「でんしゃがまいます」(同) 駅では様々な人がたくさんの仕事をしています。駅のすべてがわかるような本。「こんとあき」(同) あきとこの旅は汽車に乗るところからでしたね。こんはなんでもわかっていますすごい、ですが…「やまのかいしゃ」(同) ねぼうのほげたさん、とんでもない恰好でやってきた電車にとりあえず飛び乗ったのですが、どうも会社に行く電車ではない様子。どこの会社に行く気でしょうか。「かしこいビル」(ペンギン社) メリーに届いた手紙は叔母様からの招待状。でも大切な人形のビルを忘れて列車に乗ってしまいました。ビルは追いかけて、追いかけて…列車に追いつけるなんてすごい！

クイズ解答 1) 2「ひかり1号」が一番始めにはした第一号列車。2) 新幹線は時速300km台。子供を50m12秒くらいなので時速にしたらおよそ15km。およそ20倍ですね。